

# 小木の子 われら

校 区 内  
全 戸 回 覧

令和2年9月23日発行

## あきらめないが生み出す力

校 長 齋 藤 光 夫

「2年前の私だったら、1セットを落とし、2セット目にいきなりブレイクされた時点で心が折れていた。」

大坂なおみ選手が見事に逆転し、優勝したあとのインタビューで語ったコメントです。テニス四大大会の一つである全米オープンでの決勝。1セットを取られたあとの逆転優勝は26年ぶりのことだといいます。世界屈指のアスリートたちが戦う大会での決勝ともなれば、その場の重圧は想像すらできませんが、大坂選手が逆転できた理由に、自分自身のメンタル面での成長をあげたことは、その後の様々な報道の中でも、多くのスポーツ関係者や解説者が認め、賞賛していました。

「最後まであきらめない」は、スポーツの世界に限らず、いつ、どんなときでも大切にされている精神の一つですが、口で語れるほど簡単なことではなく、心の強さが求められること、人としての信念が必要なことをこの大坂選手の優勝は物語っています。

この大会中、大坂選手とは対照的な一幕がありました。男子のジョコビッチ選手が不用意にコート外に返したボールが線審の喉に当たり、危険行為で失格となったのです。故意ではなかったそうですが、相手にリードされたあとの行為であり、スポーツにおけるメンタルコントロールの重要性を改めて感じさせた一幕でした。大坂選手は、この件について「今回の行為は、今後、間違いなくみんなに意識させると思う」と述べています。

どんな競技でも、気を緩めたら負けであることは言うまでもありません。どんなに力の差があっても、ルールの中で対戦している以上、最後までわからない。だからこそ、スポーツは、単に勝ち負けではなく、真剣に戦い合うことで互いにリスペクト（相手を重んじる）できるのであり、観戦している多くの人を魅了させるのだと思います。

まもなく小木小学校の運動会です。徒競走を中心とした個人種目と学年部の興味走に種目は限られ、地域の方の応援も制限した中での縮小運動会です。それでも、子どもたち一人一人の最後まであきらめずに走り抜く姿、戦い抜く真剣な眼差しを期待しています。